

第11回 病態生化学セミナーのご案内

日時：平成20年6月16日（月曜日）午後6時半～

場所：医学部看護学科棟3階 会議室

演題：-21世紀COEプログラム- ヒト人工染色体の医学応用

演者：押村 光雄 教授

鳥取大学大学院医学系研究科機能再生医科学専攻

生体機能医工学講座遺伝子機能工学部門 教授

21世紀COEプログラム「染色体工学技術開発の拠点形成」拠点リーダー

理想的な遺伝子治療・機能再生医療を達成するうえで、ベクターに求められる条件として、以下の五つが挙げられる。(1) 遺伝子導入効率がよい、(2) 組織特異的な遺伝子発現が可能、(3) 遺伝子発現のタイミングが正確である、(4) 特定量の遺伝子発現が得られる、(5) 組織特異的・機能的アイソフォームが正しく形成される。現在、これらの条件を満たし、かつ遺伝子本来の発現のある長大な遺伝子構造全体を運ぶことのできるベクターの開発が求められている。我々は、ヒト21番染色体を改変し、目的の遺伝子をカセット方式で部位特異的に挿入できる新規の人工染色体ベクターを構築した。また、HACはダウン症モデルマウスやヒト薬物代謝系を持つマウスの作製など、ヒト化マウス作製などにも利用できる。今回は、遺伝子・再生医療を目指し、ヒト人工染色体と幹細胞を用いた研究の現状と今後の課題を紹介する。【押村 光雄】

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp